

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	低炭素水素等
	対象	合成メタン

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	合成メタン
対象行動	中間・最終製品製造
概要	合成メタンを国内外から調達し、都市ガス原料としてパイプライン供給、あるいはLNGローリー供給を行う。

3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	合成メタン
削減対象	Scope 3
目標年度	2030年度
基準年度	2022年度
目標削減率	20%
削減目標における選択対象の位置づけ	2030年度にスコープ1～3の合計で2022年度比2割の削減を目指しており、複数の手段で達成を目指すうちの1つとして、合成メタンを調達・販売することで弊社のスコープ3（販売した製品の使用）が削減される。（削減目標の詳細は https://www.tokyo-gas.co.jp/letter/2024/20240401.html 参照）

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	合成メタン
目標年度	2030年度
定量的目標	都市ガス供給量の1%相当の合成メタンを調達して導管に注入する
選択対象に関する定量的目標の概要	東京ガスとしてカーボンニュートラルロードマップ（24年3月）等に記載している定量目標。（ https://www.tokyo-gas.co.jp/letter/2024/20240401.html ）

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	子会社
------	-----

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

（日付）2024年12月18日

（企業名）東京瓦斯株式会社
（責任者名）代表執行役社長 笹山 晋一